Canon

RF-S

10-18mm F4.5-6.3 IS STM

使用説明書

JPN

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノン RF-S10-18mm F4.5-6.3 IS STM は、RF-Sレンズ対応EOS Rシリーズカメラ*用の超広角ズームレンズです。

* フルサイズセンサーのEOS Rシリーズカメラに装着した際は、撮影画面の中央部をクロップした撮影になります。(APS-Cサイズ相当)
詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- ISはImage Stabilizer(手ブレ補正機能)の略称です。
- STMはStepping Motor(ステッピングモーター)の略称です。

本文中のマークについて

撮影に不都合が生じる可能性のある注意事項などが書いてあります。

基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

カメラのファームウェアとカメラアプリケーションについて

お使いのカメラのファームウェアと、対応したカメラアプリケーションは最新のバージョンにしてください。それらの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

カメラ*のファームウェアが対応したバージョンでない場合、次の制限があります。
- 拡大表示できません。
- その他、カメラの動作に不具合が生じることがあります。

* 以下のカメラにおいて
EOS R、EOS RP

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。

⚠ 警告 死亡や重傷を負う可能性がある内容です。

- **レンズを通して、太陽や強い光源を直接見ないでください。**失明の原因となります。
- **レンズキャップを取り付けていないレンズを、日光下に放置しないでください。**レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。

⚠ 注意 傷害や、製品以外の物的損害を負う可能性がある内容です。

- **製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。**製品に触れるとやけどやけがの原因となります。

一般的なご注意

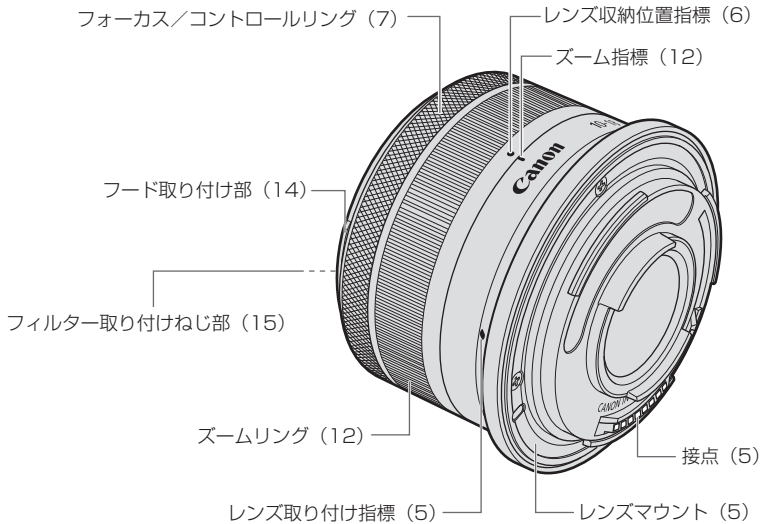
取り扱い上のご注意

- 日光下の車の中など、高温となる場所に製品を放置しないでください。故障の原因となります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所に移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かい場所から寒い場所に移すときも、同様にしてください。
- レンズの内部が揺れ動いて見えることがありますが、故障ではなく、使用上の問題はありません。
- 適切な絞り制御のため、絞り優先AEやマニュアル露出などの絞り数値を指定した撮影時であっても、ズーミングによって絞り羽根が動くことがあります。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

撮影上のご注意

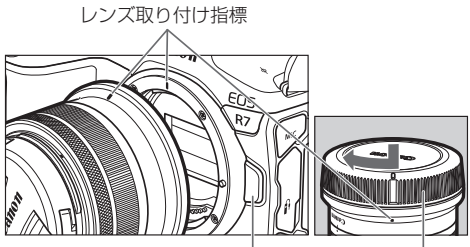
- このレンズは焦点距離が短く、前玉のゴミやほこりが画像に写り込みやすいため注意が必要です。前玉のゴミやほこりは、市販のブロアーで吹き飛ばしてください。

各部の名称



●（＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

1. レンズの取り付け／取り外し



レンズの取り付け方

レンズ側とカメラ側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

レンズの取り外し方

カメラのレンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。回転が止まるまで回してから取り外します。

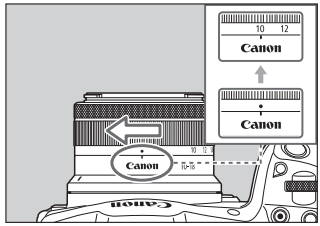
詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- レンズの取り付け/取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- レンズを取り外す前に、レンズキャップを取り付けてください。
- レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、レンズマウント側を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。ダストキャップを取り付けるときは、レンズ側とダストキャップ側の取り付け指標を合わせてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いたときは、柔らかい布で接点を清掃してください。

2. 撮影の準備とレンズの収納

このレンズは収納機構を備えています。
収納状態では撮影状態よりもレンズの全長を短くすることができます。
収納状態では撮影ができません。
撮影をするときは次の手順で撮影準備位置にセットしてください。

収納状態からの撮影の準備



ズームリングを白い矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回して撮影準備位置にセットします。

● レンズ収納位置指標とズーム指標が合っているときは、やや力を加えてズームリングを矢印の方向に回してください。

レンズの収納

1 撮影状態からズームリングを白い矢印の逆方向に回します。

2 ワイド端（10mm）を越えて更に回します。

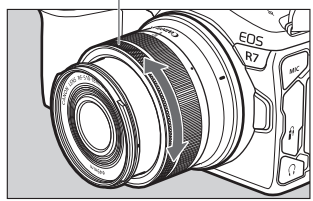
3 端まで回し、レンズ収納位置指標とズーム指標を合わせて収納します。

● レンズの収納時、レンズの繰り出し部とフォーカス/コントロールリングの間に指などをはさまないように注意してください。

3. フォーカス / コントロールリング

フォーカス/コントロールリングは、フォーカスリング、もしくはコントロールリングとして使うことができます。

フォーカス/コントロールリング



フォーカスリングとコントロールリングの切り換えは、カメラ側で行います。
切り換え非対応カメラ*ではフォーカスリングとしてのみ使うことができます。
詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

* EOS R, RP, Ra, R5, R6

フォーカスリングとして使う

フォーカスモード（AF/MF）はカメラ側で設定します。
オートフォーカス（AF）で撮影するときは、カメラのフォーカスモードを［AF］にします。
マニュアルフォーカス（MF）で撮影するときは、カメラのフォーカスモードを［MF］にし、フォーカスリング（フォーカス/コントロールリング）を回してピントを合わせます。

- フォーカスモードを［MF］から［AF］に切り換えてもAFが動作しないときまたは、カメラのメニューでフォーカスモードが表示されないときは、フォーカスリングを無限遠方向に回し、ピント位置を【AFでピントが合う範囲】へ移動させてください。
  - フォーカスレンズのピント位置がMFでのみピントを合わせることができる【MF専用範囲】にあるときは、フォーカスモードを［AF］に切り換えることはできません。
  - 詳しくは、4.マニュアルフォーカス（MF）を使ったクローズアップ撮影についてをお読みください。

コントロールリングとして使う

コントロールリングの機能はカメラ側のメニューで設定します。シャッター速度や絞り数値の設定など、カメラでよく使う機能を割り当てることができます。
コントロールリングの使い方について、詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- このレンズにフォーカスモードスイッチおよび、フォーカス/コントロール切り換えスイッチはありません。
- フォーカスリング（フォーカス/コントロールリング）を急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。

- このレンズのフォーカスリング（フォーカス/コントロールリング）は電子式です。
- 電子式フルタイムマニュアルフォーカス対応のカメラでは、カメラ操作可能な状態で、マニュアルフォーカスができます。ただし、カメラの設定変更が必要です。
- カメラのAF動作がワンショットAFのとき、AFのあとシャッターボタン半押しの状態で、マニュアルフォーカスができます（電子式手動フォーカス機能）。ただし、カメラの設定変更が必要です。
- 動画撮影時は、静止画撮影時よりもAFが遅くなります。動画サーボAFを[する]に設定すると、カメラ側でAF速度の調整を行うことができます。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

4. マニュアルフォーカス（MF）を使ったクローズアップ撮影について

このレンズは、カメラのフォーカスモードを［MF］にすると［AF］の時よりもさらに被写体に近づいて大きく撮影できます。

ワイド端での撮影距離範囲は次のようになります。

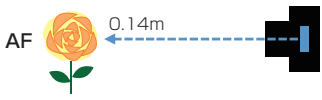
- 【AFでピントが合う範囲】：0.14m～∞
- 【MFでピントが合う範囲】：0.086m～∞

0.086m以上0.14m未満の範囲は、MFでのみピントを合わせることができます。【MF専用範囲】

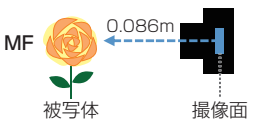
- 【AFでピントが合う範囲】と【MFでピントが合う範囲】は、焦点距離によって変化します。
- ワイド端以外の撮影距離範囲は、16ページの主な仕様をご覧ください。

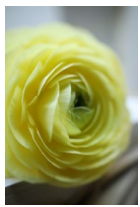
- 撮影距離とは、カメラ上面の［⊖］（撮像面マーク）から被写体までの距離のことです。

ワイド端での例



AF





MF

マニュアルフォーカス（MF）を使ったクローズアップ撮影について

【MF専用範囲】で撮影をするには次の手順で操作します。

1 カメラ側でフォーカス/コントロールリングの設定をフォーカスリングにします。

2 カメラ側でフォーカスモードを［MF］に設定します。

3 フォーカスリングを至近方向に回し、ピント位置を【AFでピントが合う範囲】から【MF専用範囲】に移動させます。（*注記1,2）

4 【MF専用範囲】で被写体にマニュアルフォーカスでピントを合わせて撮影します。

注記１　カメラのフォーカスモードが［AF］のままでも、レンズの電子式手動フォーカス機能*1または電子式フルタイムマニュアルフォーカス機能*2を使って【MF専用範囲】にピントを移動させることができます。
このとき、ピント位置が【MF専用範囲】に入るとカメラのフォーカスモードは、自動的に［MF］に切り換わります。

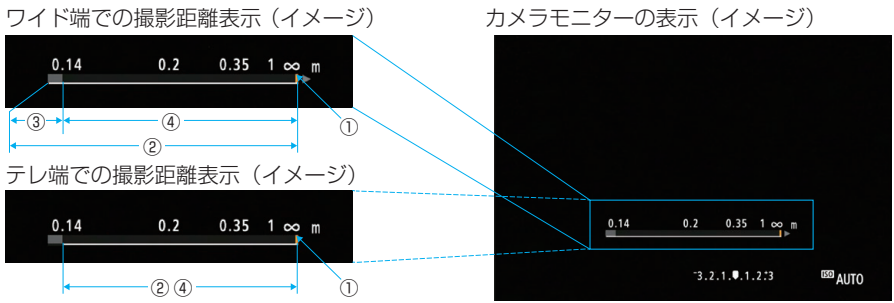
注記２　ピント位置が【MF専用範囲】にあるときは、フォーカスモードを［AF］に切り換えることはできません。［AF］に切り換えるためには、フォーカスリングを無限遠方向に回して、ピント位置を【AFでピントが合う範囲】へ移動させてください。

*1 カメラのAF動作がワンショットAFのとき、AF動作を行ったあとシャッターボタン半押しを続けていれば手動でピント調整ができる機能。
*2 ワンショットAF ／サーボAFの両方で、手動ピント調整ができる機能。
ただし*1*2の機能はともに、カメラの設定変更が必要です。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

【MF専用範囲】にピント位置があると次の制限事項があります。
- 【AFでピントが合う範囲】よりも画質が低下します。撮影後の画像を確認しながら撮影することをおすすめします。
- EOS Rに装着した場合、フォーカスガイド機能の検出精度が低下します。フォーカスガイド機能は【AFでピントが合う範囲】でお使いください。
- パソコンやスマートフォンからのリモート撮影でピント合わせの操作はできません。

マニュアルフォーカス（MF）を使ったクローズアップ撮影について

カメラの撮影距離表示機能*3を使ってピント位置を確認することができます。



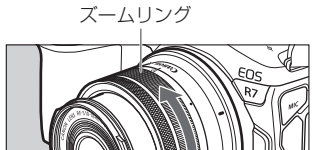
左上のイラストは、カメラの撮影距離表示部分*4を拡大して示したイメージ図です。

- 左側が至近方向、右側の∞マークが無限遠方向を表しています。
- ①のオレンジ色の縦線は、現在のピント位置を表しています。
- ②の白線の範囲は、撮影可能なピント位置の範囲を表しています。
- ③の範囲は、［MF］でのみピントを合わせることができる【MF専用範囲】です。
- ④の範囲は、［MF］と［AF］でピントを合わせることができる範囲です。
  ［AF］では④の範囲のみピントを合わせることができます。

*3「撮影距離表示」の表示方法はカメラの使用説明書をご覧ください。

*4【AFでピントが合う範囲】と【MFでピントが合う範囲】は、焦点距離によって変化するため撮影距離の表示状態も焦点距離によって変化します。

5. ズーミング



ズームリングを手で回してズーミングします。

- ピント合わせはズーミングしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズーミングすると、ピント誤差が生じることがあります。
- ズームリングを急回転させた場合、一時的にピントがボケることがあります。

6. 手ブレ補正機能

撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じた手ブレ補正を行います。

手ブレ補正機能のON/OFFは、カメラ側で設定します。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- 被写体が動くことによって生じるブレは補正できません。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 三脚を使用した場合は、三脚の種類や設置条件および装着するカメラのシャッタースピードの設定などにより、手ブレ補正の効果が十分に得られない場合や、手ブレ補正機能をOFFにした方がよい場合があります。
- 一脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、撮影条件によっては補正効果が十分に得られないことがあります。

- ボディー内手ブレ補正機構搭載のカメラと組み合わせると協調制御を行います。

手ブレ補正機能

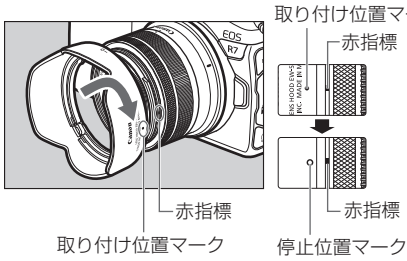
このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影に適しています。

- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボが使えない場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使えない状況

- 自動車や鉄道などの流し撮り
  水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。

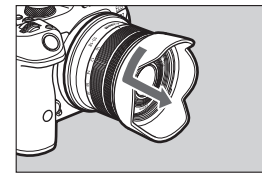
7. フード（別売）

専用のフードは、フレアやゴーストの原因となる不要光をさえぎるとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



フードの取り付け方

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標を合わせ、レンズの赤指標とフードの停止位置マークが合うまで、フードを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。



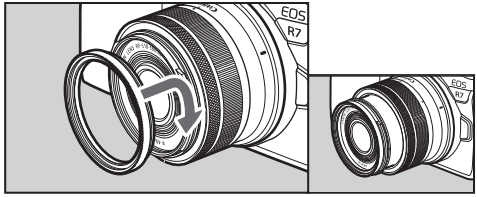
フードの取り外し方

フードの取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外します。
収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。

8. フィルター（別売）

フィルター（φ49）は、レンズ先端のフィルター取り付けねじ部に取り付けます。



● フィルターは1枚のみ使えます。

主な仕様

焦点距離・明るさ	10-18mm F4.5-6.3				
レンズ構成	10群12枚				
開放絞り数値	F4.5-6.3（1/3段表示）、F4.5-6.7（1/2段表示）				
最小絞り数値	F22-32				
画角	水平97°10'～64°30'、垂直74°10'～45°30'、対角107°30'～74°20'				
AF時					
焦点距離	10mm	12mm	14mm	16mm	18mm
最短撮影距離	0.14m	0.14m	0.14m	0.14m	0.14m
撮影倍率	0.13倍	0.15倍	0.18倍	0.21倍	0.23倍
画界	約165×110mm	約143×95mm	約122×81mm	約106×70mm	約96×64mm
MF時					
焦点距離	10mm	12mm	14mm	16mm	18mm
最短撮影距離	0.086m	0.1m	0.11m	0.12m	0.14m
撮影倍率	0.5倍	0.33倍	0.3倍	0.29倍	0.23倍
画界	約45×30mm	約67×45mm	約74×49mm	約78×52mm	約96×64mm
フィルター径	49mm				
最大径×長さ	約69×44.9mm（レンズ収納時）				
質量	約150g				
フード	EW-53B（別売）				
レンズキャップ	E-49*				
レンズダストキャップ	レンズダストキャップRF/RF II*				
ケース	LP814（別売）				

主な仕様

- 35mmフォーマット換算での焦点距離イメージは16-29mmとなります。
- レンズの長さはレンズマウント面からレンズ先端までの寸法です。
  付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+23.9mmになります。
- 最大径×長さ・質量は本体のみの値です。
- *はレンズに同梱されていますが、単品でも購入できます。
- クローズアップレンズ250D/500Dは使用可能なサイズがありません。
- エクステンダーは使用できません。
- 一部のカメラ**では、このレンズを使った多重露出撮影はできません。
  ** EOS R, RP, Ra, R5, R6
- 連写中のズーミングで、歪みが目立つ画像が撮影されることがあります。
- 記載のデータはすべて当社基準によります。
- 使用している写真はイメージ写真です。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品の製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の機種への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、お手持ちの消耗品や付属品がご使用いただけなくなることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEOSホームページ

canon.jp/eos

キヤノンお客様相談センター

0570-08-0002

（つながらないときは 050-555-90002）

受付時間〈平日/土〉9:00 ～ 17:00
（12月31日から1月3日は、休ませていただきます。）

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon

CT1-D304-C 0226Ni © CANON INC. 2023